

精神療法講義録

第四輯

特 104
40

X
複写

~~40~~
~~177~~

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{18m} 1 2 3 4 5

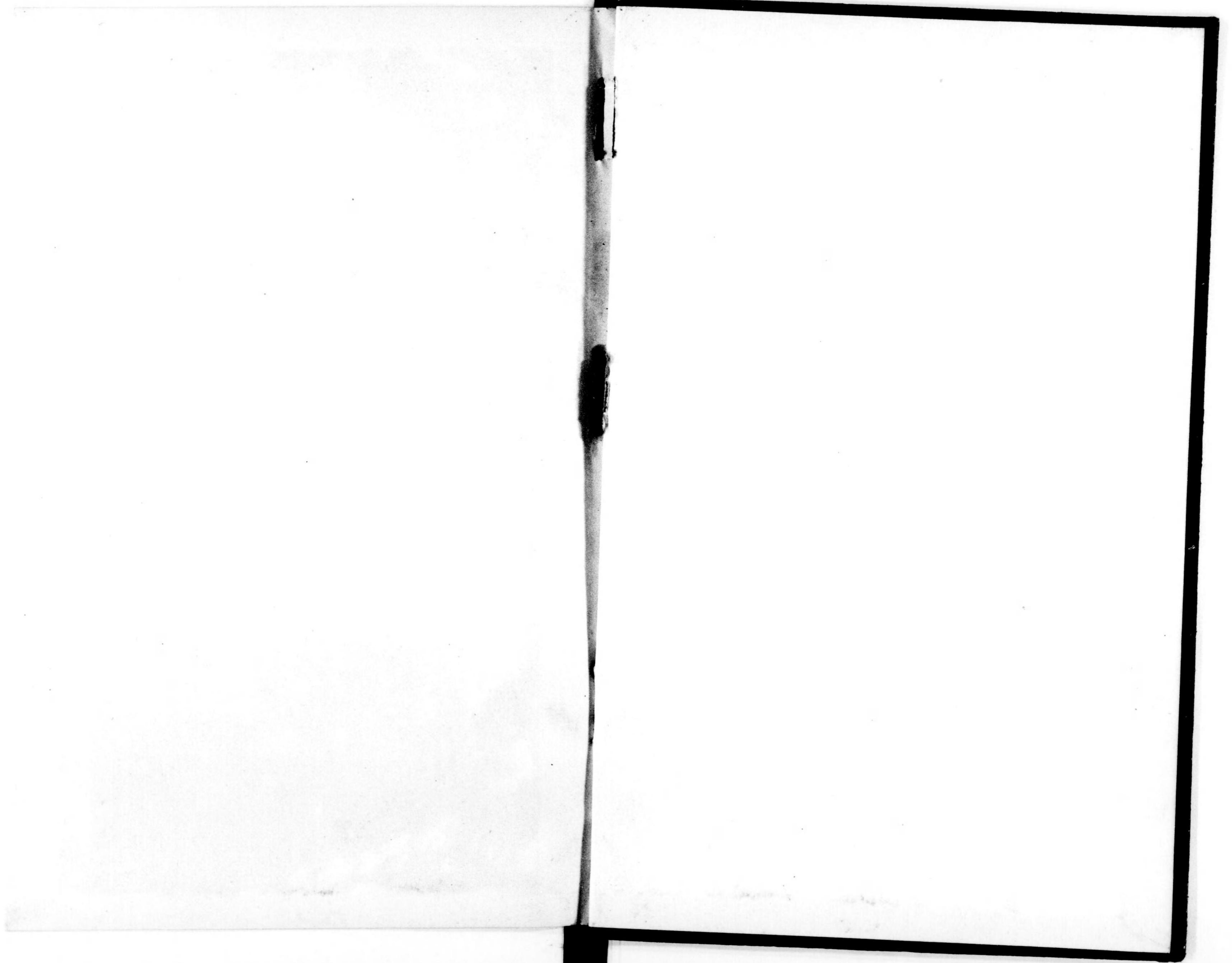
始



精神療法講義錄

第四輯





持104
40

古屋鐵石講述



精神療法講義錄

第四輯

8. 2. 1

内交

東京精神研究會

精神療法講義

第四輯目次

第十九卷	神仙術療法	二二七
第一章	神仙術療法とは何ぞや	二二七
第二章	神仙術療法を行ふ法	二二八
第二十卷	耳根圓通妙智療法	二三一
第一章	耳根圓通妙智療法とは何ぞや	二三一
第二章	木原鬼佛式耳根圓通妙智療法	二三二
第三章	古屋鐵石式耳根圓通妙智療法	二三四
第二十一卷	人身自由術療法	二三七
第一章	人身自由術療法とは何ぞや	二三七

目次終

第二章 人身自由術療法を行ふ法……………二四二

第二十二卷 稼働無想療法……………二四七

第一章 稼働無想療法とは何ぞや……………二四七

第二章 稼働無想療法を行ふ法……………二四九

第二十三卷 環境轉換療法……………二五三

第一章 環境轉換療法とは何ぞや……………二五三

第二章 環境轉換療法を行ふ法……………二五三

第二十四卷 慰藉歡樂療法……………二五五

第一章 慰藉歡樂療法とは何ぞや……………二五五

第二章 慰藉歡樂療法を行ふ法……………二五五

第三章 精神療法成功の秘訣……………二六六

第十九卷 神仙術療法

第一章 神仙術療法とは何ぞや

諺に急がば廻れと云ふことがある、大慾は無慾に似たりと云ふことがある、故に廻ることが急ぐことで無慾となることが大慾をかくことである、此理によりて、無慾の神仙術修養法を賞揚する所以である、故に精神治療家となりて、偉大の効果を擧げんと欲せば、先づ神仙的修養をしなければならぬ、其れには人なき山間に庵を結び、食物は火を用ひしものは一切避け、蕎麥粉を水に練りたるを常食とし、飲み物としては水を飲むのみ、而して静座默想して精神を鍛練するのである、思想としては人の爲めには身命を惜しまぬ、金を得る爲めに治療するのではない、治療をするのは同胞の爲め、國の爲めに盡すのが自分の眞意である、自分は陛下に忠義を盡さなければならぬ、治療といふ天職を全ふするのが即ち忠義である、自分が今日一日無事に暮す

四思によりて吾人は生きてゐる

神仙の思想

ことを得たのは、誰の御蔭であるか、陛下の御蔭である、國土の御蔭である、父母の御蔭である、同胞の御蔭である、自己の力のみではない、此の御恩を報じなければならぬ、斯う云ふ思想を養ひ、其思想を實現することが必要である。

第二章 神仙術療法を行ふ法

神仙は精神力の表象

神仙術療法を行はんと欲する人は、前章に述べし修養をなし、心を清くし、精神力を強め、健康長壽の基を固め、而して治療を行ひ得るのである。通俗に神仙と云へば、半ば精神を失つた世を棄てた者のやうに思ふ人があるが、實際はさうではない、所謂眞の神仙は見た所は或は乞食の如く、或は痴呆の如く、或は狂人の如くに見えるが、治療に着手するや、確乎不拔の精神を以て、普通人の成し能はざる事をなし得る、これが眞の神仙である、支那の列仙傳の繪畫には、龍に乗りて天空を翔けたり、虎を投げたり、石を叩いて羊にする等のことがある、これは皆普通人の爲し能はぬ事を爲し得る、精神の發露を譬喩したもので、一度手を翻せば、龍虎も亦御すべし、木石にも靈魂を入れ得べし。

療法の顛末

按摩應用と暗示法應用

く、重病も即治し、千年の壽をも全ふし得る如き、普通人の爲し能はざることをなし得る、ことを譬へて示したものである。斯る偉大の靈力を具有せる神仙者が、催眠術療法の原理原則を應用して、療法を行ふのである、即ち病人を安樂にして置き、深呼吸をなさせ、神を祈らせ置き、術者精神を統一して、病人の患部に手を觸れて、輕撫し、又は患部に息を吹きかけて、念力を凝めて癒れ、癒つたと暗示すれば、重病も癒るのである、要は術者の信念と患者の信念の合致によりて癒るのである。又最も有力なる方法がある、先づ患者を仰臥せしめ、大なる深呼吸を數回行はせ、術者は右手にて患者の前額部を押へ、左手にて患者の下腹部を稍強く押す、然ると患者は異様の感が起きて、身もだへするものがある、次に兩肩より兩手にかけて、又兩肩より腹部を経て腰の邊りに至り、腰より足の先に至るまで按摩法の中の揉捏法と強擦法とを加へて行ひつゝ、血液の循環はよくなつた、心身は爽快になつたと繰り返して暗示をなし、次に患者を伏臥せしめ、兩肩より背部腰部を経て足部に至る迄、強擦法と輕擦法とを兼ね行ひ、特

に腰椎部に力を入れて行ひつゝ、心身は爽快になつた、血液の循環はよくなつた、苦痛は取れた、心身は健全になつたと繰り返して暗示すると其暗示の通りに健全の人となります。

自ら自分の信
用を損する者
がある

精神療法を行ふ者の中に、商賣敵の意にて他人の精神療法を悪しざまに罵り、甚だしきになると醫藥を罵り、自分の療法は完全である、世界一であると誇り、自分の信用を博せんとする者がある、是は誠に悪いことである、悪口を云ふ、其人の人格は却つて疑はれて信用を損することになる、殊に精神療法家が悪口を云ふと、精神療法家全體の信用を損することとなるを以て大に慎まねばならぬ、去り乍ら學術上の事は互に研究し論じ合つて、眞理の發見に勤むることは、是非せなければ療法は發達しない、此意に於て、學術上のことを是を是とし、非を非として正々堂々と論ずることは、斯界に忠實なる人として、推奨する所であるが、徒に商賣敵的考へて、悪口を云ふことは、自分の悪人であることを廣告することになる。

第二十卷 耳根圓通妙智療法

第一章 耳根圓通妙智療法とは何ぞや

耳根の定力

耳根圓通法の
靈果

耳根圓通妙智療法は、楞嚴經の中に説きあることに基き、覺仙原坦山師之を實驗して得る處あり、次で原田玄龍老師之を研究し、新に發見せられし處あり、更に木原鬼佛居士之を通俗に普及せらる、木原鬼佛氏の著身心解脱耳根圓通法秘録と云ふ書によれば、耳根圓通法は身心解脱の根本的修行法で、造化生々の靈樞を握るものである、然り而してこれを實驗修得すれば、煩惱の解脱と共に身體強健の靈果を治め得る事が出来る、其本源は自己の腦中にある、これを得るには學識才能にては得られない、金剛三昧の定力に依り、耳根より無明の因結を清淨ならしむるのである、定力とは一定の身所に心氣力を込め、且つ其部處に力を集注することである、此の法を修得するには、人に依つて無明の厚薄濃淡と、定力の強弱優劣とによりて、遲速緩急の差別は

あるが各自疑ふ所なく熱心に之を修業すれば必ず通徹の妙境に達するこ
とが出来ると云へり。

第二章 木原鬼佛式耳根圓通妙智療法

坐法、呼吸法、
齒根力

耳根圓通を行ふには耳根に定力を用ふるのである、即ち理智的の觀念を排
し、身心をなるべく平靜の位置に保ち、身體の前後左右に傾かぬ様坐るので
ある、而して足は踵を割つて兩足の拇指が僅かに接する位になしてその上
に臀部を安置し、兩手は軽く振つて膝の上に置き、眼は普通の儘でよい、而し
て呼吸は自然に任せ、奥齒を軽く合せてその齒根に力を込め、兩手に向つて
勇猛の定力を集注するのである、斯くすれば初めは肩より頸筋にかけ、些か
凝りを覚え、又人によりては耳鳴りを起す事もあるが、これは耳根神経筋に
充滿せる無明粘液が抵抗するためであるから、これらの障害に恐るゝ事な
く勵行すれば、初めて耳根に徹し、自ら後腦の微動を覺ゆるに至る、これ通徹
の初歩にして、これを前腦に及ぼす時は、漸次内部に向つて活動を起し、遂に

施術の時間と
回数

施術の要旨

全腦空淨の如くなつて、その快言説の及ぶ所でない、これ通徹の證である、實
修時間はその人の都合により適宜に定めてよいが、朝晝夜三回大凡十分乃
至十五分間位宛行ふがよい、尙朝起床時は精神の安靜なる時であるから、こ
の時充分の努力を盡して修行すべきである。

通徹に至る期間は普通五日乃至一週間とし、遅きも二週間の修行に依つて
必ず通徹の妙境に達する事が出来る、耳根圓通法は自己の修養法健康法で
ある、而して妙智療法と云ふのは、術者が病人に對して行ふ法なのである。

耳根圓通妙智療法秘録と云ふ、木原鬼佛氏講述の書に、妙智療法とは吾々平
素の修養に依つて、宇宙の天心靈と同化したる靈力、即ち妙智力を病者に集
注せば、其精神は靈氣に動かされて遂に病魔を驅逐し、安樂の境に至らしむ
ることが出来る、是れ余の唱道する妙智療法であると、そして妙智療法を行
ふ方法の要點に曰く。

(一) 病者を安靜ならしめ、術者の眼を注視せしむること。

(二) 術者は耳根に定力を入れて、單一觀念となり、掌を軽く病者の患部に當

て思念すること。

(三)患部の思念終りてより、病者をして仰臥せしめ、脊髄(主腰部)に今一度思念をなすこと。

(四)一回の思念時間は三分乃至五分とし、病の輕重により術者の適宜たること。

之れなり、尙參考の爲め、胃腸病を癒す實例に曰く、何れも掌を其患部に軽く當て、左の思念をするのである。血液の循環は良くなつて胃腸は強固になる。胃液の分泌は旺になつて、消化は良くなり、食慾は進み、便通は順調になる。此他は此の例により類推して知るべきである。

第三章 古屋鐵石式耳根圓通妙智療法

妙智力養成の
修養法

先づ術者は催眠術療法の大意に通曉し、病人を自在に催眠せしむる能力を養ひ、而して後靜坐して深呼吸をなし、神を念じつゝ、無我三昧の境に入り、耳根に定力を入るゝと、其耳根は著しく隆起し振動する。身體を椅子と椅子

とに架して強直すると人間數名其上に直立するも何等のことなし、斯く迄に修養を積みたるものは心身健康となり、無病長壽することは疑ひない。従つて人の病氣をも自在に癒すことを得る之れ、即ち耳根は圓通し妙智力を具へたのである。耳根圓通の修養積み妙智力全く具はらば、愈々病人を施術するのである。

施術の方法

先づ病人を安樂の位置に平臥せしめ、術者は傍に正座して、精神の統一を圖り、無我三昧の境に入る。病人をば閉目せしめ、術者の指で目の上を軽く撫でつゝ、心はずいと鎮まる。鎮まると心力を凝めて低聲にて云ふこと、凡そ十分時間位すると、病人の心はズーツと靜まりよい氣持になつて居る。其折術者患部に軽く手を當て、撫でつゝ、痛みは取れた健康になつたと云ふと、其の云ふた通りに痛みは取れて健康となるのである。今一方あり、先づ病人を坐せしめて置き、術者は病人の後に坐し、病人の頸窩の處を一寸揉み、それから脊筋をずつと撫で下し、病氣の局部へ衣服の上より手を當て、心力を凝めて暫らく軽く抑へて居り、癒るゝと念力を凝むること二三分時間に

受術の效を無にする患者

して、次に術者は病人の前に廻り、左手を病人の肩にかけ、抱くやうにし、右手の指を病人の目の前で動かして目を瞑らせ、心は静まる静まると云ひつゝ、患部を軽く撫る、斯くすること十分時間位すると痛みは取れて健康となる、重病者には数十回行ふ必要がある。

患者中稀には誤れる固定觀念を以て居り、術者が如何程説明しても觀念を代へぬものがある、精神が全く無我にならぬから、無効であると觀念し眞に無効に終らしむるものがある、疑ひの念を以て不遜の質問をする者がある、金圓を持つて居り乍ら金圓が無いから無料で施術し呉れとか料金を負けて呉れとか云ふものがある、其處此處の術者を尋ねて受術を中止するものがある、甚だしきは料金を踏み倒さんとする者がある、斯る患者と見たら術者は其非を悔悟せしむる様に説破しなければならぬ嫌な場合がある、此事を常に心に留めて置く必要がある。

第二十一卷 人身自由術療法

第一章 人身自由術療法とは何ぞや

人身自由術の元祖

人身自由術とは其字の如く、術者は病人の心身を自由にする術である、即ち病的の心身を健康の心身に變へる術である、此術の元祖は濱口熊嶽師である、師は元漁師でありしが、山中に入りて斷食祈禱をして大信仰を得、凡人の成し能はざる奇蹟的の療法をなし得るに至つた、従て師は無學にして學理は知らざるも、信仰心深くして一種犯すべからざる大確心を以て如何なる場所如何なる人の前にも毫も犯すべからざる信念によりて行ふ、故に偉大の効果が擧る、先づ人身自由術を修得し實行せんとする人は、第一に利慾を棄て神佛を祈り、神人合一の境に精神を修養するを要する、精神を統一する修養法として護身法及び九字の印を結ぶは最もよい、濱口師が人身自由術を行ふときは、必らず其前に祈禱をなし護身法と九字の契印を行ふ、次

護身法

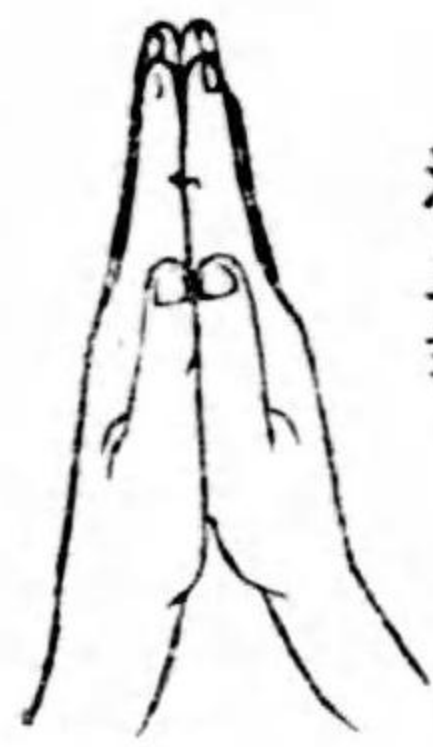
淨三業の印

佛部三昧耶の印

蓮華部三昧耶の印

第二十一卷 人身自由術療法

二三八



淨三業



佛部三昧



蓮華部

に護身法と九字の契印法を述べませう、護身法は十
 八契印中第一に位し、秘密甚深の印言である。
 其の一は「淨三業の印」と稱し、左右の掌を相合せて、掌
 の中をうつろにす、斯くしながら「唵薩嚩婆嚩輸
 薩嚩達磨薩嚩婆嚩輸度哈」と五遍唱ふるのである。
 然れば身口意にて作りたる罪業を滅して清淨なら
 しむることを得。
 其の二は「佛部三昧耶の印」にして前記淨三業の印の掌
 を開き物を兩掌に盛り置く如き姿勢をしながら「唵
 恒他藥都納婆嚩也娑嚩訶」と三遍唱ふ、然れば十方三
 世諸佛の護念を得て壽命を増し福恵を長ずる。
 其の三は「蓮華部三昧耶の印」にして左右の五指を開き
 て拇指と拇指と小指と小指と相接して、八葉蓮花の
 形としながら「唵跋那謨納婆嚩也娑嚩訶」と三遍唱ふ、

金剛部三昧耶の印

被甲護身の印

九字の印

金剛部

被甲護身



第二十一卷

人身自由術療法

二三九

然れば觀世音及び諸菩薩の加護を得て一切の罪業
 を消除する。
 其の四は「金剛部三昧耶の印」にして左の掌を下方に
 向け、右の掌を上部に向け、左右の兩掌の背を密接
 せしめ、拇指と小指とを各鍵の如く掛ながら「唵嚩
 廬納婆嚩也娑嚩訶」と三遍唱ふれば、金剛部の諸尊の
 靈顯をかうむり一切の病難を除き堅固の體となる。
 其の五は「被甲護身の印」にして兩小指を以て十文字形
 とし、其の兩又になんか薬指を掛けて堅く握り、中指と中
 指の尖端を合せ、人挿指の尖端を中指の背部に付け、
 拇指と拇指とを密接しつゝ「唵嚩羅銀爾鉢羅捺跋
 嚩也娑嚩訶」と五遍唱ふれば、諸の天魔の障害を除
 き、一切の厄難をよけ身を堅固ならしむ、以上を護身
 法と云ふ、此の五個の印を一より五迄手を離さず、連

臨、兵、闘、者、
皆、陳、列、在、
前、の、別



兵



闘



者

續して之を行ひつゝ呪文は暗誦し居りて早く唱ふるの
である。

次に九字の印の結び方を述べませう、九字は縦横法とも
云ひ、根本の呪語九字より成れる故九字の名がある、九字
即ち臨兵闘者皆陳列在前之れである、俗に九字を切ると
云ふは此事である。

呪文

印名

印の結び方

臨 獨古印

左右の手をうちへ組み、中指を立て合す。

兵 大金剛輪印

二手内に組み、人挿指を立て、中指にてからむ。

闘 外獅子印

左右互に中指にて頭指をからみ、大指無名指小指を立て合す。

者 内獅子印

左右互に組み、中指を無名指の交

九字の唱文



皆



陳



列

皆 外縛印
陳 内縛印
烈 智拳印

在 日輪印

前 隱形印

又にからみ、大指頭指小指を立て合す。

二手各々外へ組み合す。

十指互に内へ組み入る。

右の四指を握り、頭指を立て、左手にて頭指を握る。

左右の大指頭指の端をつけ、餘の四指は開き散らす。

左の手をうつろに握り、右の手の上に置く。

而して口に悪魔剛伏御敵退散七難即滅七福即成秘と唱へ息を吹き入れ、印を解きて、刀印即ち頭指と中指とを立て、他の指を握り、刀を以て物を切り、拂ふ状を空中にてなす、其切り方は臨と横切し、兵と縦切し、斯くの如く闘者皆



前



陳烈在前と五横四縦に切り拂ふのである、よく之を熟練して居りて前記九個の印を殆ど一の如く連続して之を行ふのである、故に其手先の莊嚴にして奇警なる、確に患者及び傍觀者の信念を増すと共に術者の精神は之によりて統一し宇宙靈と合致す、其統一したる精神力によりて療法を行ふ故効果が擧るのである。

第二章 人身自由術療法を

行ふ法

人身自由術の元祖濱口熊嶽師が人身自由術療法を行ふ法は患者が師の治療所に來れば、受付所にて一回の治療料をとりて治療券を與へ廣い室に通す、其室には患者を澤山收容し置く、其室の中央正面には神棚を飾り七五三を其四方に吊り下げ、神前に火を炊き炎々と燃え上る其

人身自由術療法

乳を出す法

齒を抜き黒子を取る法

術を断る患者

の上に御幣を吊り下げ置き、師は其前に正座し祝詞を讀みて、自己の精神の統一を計り、神の靈顯現る、機に達したるとき、師は患者に向ひ、汝は何處が悪い、患者曰く、妾には赤子が在るも、乳が出でずして困る、師曰く、よしと云ふや、直に護身法と九字の印を結び、「バツ」「バツ」と力ある掛聲をなすつゝ、乳に手を當て、絞ると、今の今迄少しも出でざりし乳が勢ひよく噴出する、師曰く、癒つた歸れ、師は次の患者に向ひ、汝は何處が悪い、患者曰く、私は齒が痛んで困る、痛む齒を抜いて下さい、師は印を結び、痛む齒の上の頬に手を當て、「バツ」「バツ」最う抜けた口を開け、患者口を開くと齒はポロリと落ちる、次の患者に向ひ、汝は何處が悪い、患者曰く、私は顔に黒子がありて見苦しいから、取つて下さい、師は黒子の上の指頭を當て、「バツ」「バツ」と云ふと、黒子は取れる、其跡から血が少し出ることがある、次の患者に向ひ、汝は何處が悪い、私は足が不随となつて此通り曲りません、師曰く、汝の病氣は癒らないから、歸れと云ふて、術せず、次の患者は神経痛にて肩が痛んで堪へられぬ痛を取つて下さい、師は痛む局部に向つて印を結び、「バツ」「バツ」と云ひて最早

癒る患者と癒らぬ患者

よし歸れ、患者先生まだ痛みが取れませぬ、師曰く明日又來い、次の患者は神經衰弱にて強迫觀念に苦しむ、師「バツ」「バツ」歸つてよい、患者曰く少しも快くありません、真に癒して下さい、歸つて又明日來い。

斯様の風に施術し一人の患者に對する施術時間は五分時間、又は二分時間位のともある、故に短時間の間に百人又は五百人も施術すると云ふ、師は一箇所に長く停まらずして、一箇所に一二週間宛施術して全国各地を巡遊し米國迄も廻つた、夫て濱口師が行ふ法は氣合術療法として行ふ法と別に變りはない、唯神に祈禱を捧げて後必ず行ふ點が異なり居るのみである、神に祈禱を捧ぐると術者及び患者の精神を統一せしむる效ありて、治療の效を大ならしめてよい法である。

講述者の行ふ人身自由術

講述者の行ふ人身自由術療法は催眠術氣合術及び暗示術を應用して行ふのである、即ち術者は直立して居り、數尺を離れし處に患者をも直立させ置き、術者手に印契を結び、患者に閉目せしめ、患者の兩手を前方に水平に伸ばさし置き、術者其兩手は寄りて合掌すると暗示すると其兩手は寄りて合掌

警察署大に奨励した

する、其手と手は堅く着いて離れぬと暗示すると離れぬ、エイツと云ふと其兩手は左右に開くと暗示し置き、エイツと力ある一聲を發すると、其手は真に開く、兩手は兩側に下ると暗示すると下る、斯くの如く實際的暗示が悉く成功せば兼て聴き置きし、患部に手を當て「エイツ」と一聲、二聲、又は三聲唱ふると苦痛は消えてなくなるものである、序に申述べたきことは、濱口師の人身自由術療法に關する各地の警察署の態度である、濱口氏は全国各地を巡り、到る處にて人身自由術療法を行つた、米國にも渡りて十數萬圓を貯へて歸朝し、郷里紀州へ宏大の邸宅を造つたと云ふ、それに對する警察の態度が面白い、或る地方の警察にては人身自由術療法は之は結構である、國益である、人助である、と賞讃し、警察にて大に取り持ちて盛に施術を奨励したる處がある、或地方の警察にては人身自由術療法を行ふことは醫師法違反である、警察犯處罰令に觸しものである、とて濱口師は警察へ喚問さるゝ、事七百十回裁判所の法定に立つこと四十七回、或は警察所へ拘留せられたること十數回あつたと云ふ、此現象は實に奇妙である、大日本帝國內は同一の

精神療法取締

神佛を信ぜぬ
人の守るべき
修養法

法律にて支配するのであるに、同一の事實に對して、斯く區々の取扱ひに出づるとは、實に不思議である。濱口師が齒を一聲の掛聲で抜くより以上の不思議である。獨り人身自由術療法に限らず、其他の精神療法に於ても、之と同様の事があつたのを耳にした事がある。故に精神療法を行ふ人は、其管轄警察署の意見に合する様にして、之を行ふが安全である。

此書には精神の統一法として、神佛の禮拜を勧めてあること、非常であるが、讀者中に若し無神論者ありて、私は神も佛も信じない、既成宗教は何れも信ずることが出来ぬと云ふ方が、若しありましたらば、單に深呼吸をなし、其呼吸を一より五十迄計算すること、觀念を強むることをなさい、即ち精神は統一する「精神力は強烈である」と強く思ふことを朝夕を初めとし、日に何千百回となく、心力を凝めてなさい、其觀念が眞に深く強まれば、其觀念の通りに眞に精神力は強烈となり、數多の重病をも癒し得ます。

第二十二卷 稼働無想療法

第一章 稼働無想療法とは何ぞや

稼働無想療法とは病に對して害にならぬ程度の仕事に従事せしめ、身心を其事にのみ注意せしめ、雜念を拂ひ以て疾病を驅除し、健康を増進する方法である。此法はグリーンジゲル氏が考出して病人に仕事をやらし、精神病の治療に應用し、效を擧しに始まる。其後諸家の研究によつて、此法は病人の精神を轉換する最も便利なる處置として、精神病の療法に應用して居るが、現代に於ては主として機能性神経病、即ち神経衰弱ヒステリー等に用ひて居るが、將來は尙ほ大に其應用の範圍が擴張される。事と思ふ、此法は患者が好むところの仕事でないといかぬ、患者が好む仕事にても一つの仕事が出来上る間、絶えず患者が目を使つたり、或は絶えず窮屈な姿勢を保つて居らなければならぬ様な仕事は授けてはならぬ、また總て仕事に向つて熱中し易

精神病
の好療法

稼働無想療法
の適應症

貧困者の健全なる所以

い性質を以て居るものには、此療法は不適當である、終日閑暇で手持ち無沙汰で居り、自分の病氣をのみ懸念し、徒に無意味な症候を重く視て、これが爲に病勢を進める傾きのある病人には、此療法は最もよい此場合には患者は到底働きに堪へないと云ふ訴へをして、其程度を計つて全く廢さぬ様にしなければ却つて害がある、是に就てフーヘラト氏は次のやうなことを云ふて居る、貧困の人は病に罹るも、其の境遇に強迫せられて、業務を執るが故に、神経を病む違なく、結局其病に勝ちて健康となる、閑散な上流社會の人は少しの不快感情にも屈托して病魔を愛着すると、之れ至言である、貧者は終日肉體を勞する故、寢に就て眠られざる苦痛は少いが、之に反して上流社會の人は、表面は華美なる衣食住にて満せるも、其裏面に精神上の煩悶が潜み居る者が多い、殊に神経衰弱ヒステリー病者に於ては最も然りである、故に神経衰弱病者及びヒステリー病者に規則正しき一定の仕事を行はするはよい治療法である、患者にして日常職業を持たぬ人、或は自己日常の職業を厭ふ念のある人には、場合に依つて殊に興味をもつて居る別の仕事を

を選択して授ける必要がある。

第二章 稼働無想療法を行ふ法

筋肉的稼働と精神的稼働と

患者の病氣と性質とによりて、筋肉を勞する仕事が必要なる場合と、精神を勞する仕事が必要なる場合との二つがある、何れにしても患者が趣味を持つて従事するものでなければならぬ、其仕事をするに連れて、興味が湧き出づる仕事でなければならぬ、例へば園藝、漁獵等のやうなものが良い、今筋肉的労働が神経系に對して、如何なる關係があるかと云ふことを、簡単に説明すれば、適當なる身體的動作は精神を無想にし、妄念を拂ふ力がある、又規則正しき筋肉的運動は、身體の血液循環を整理して、總ての器官の働きを佳良ならしむる、例へば頑固に便秘のする場合に身體運動の結果、自然に治療することがある、適當の仕事は其進行に伴ふて、患者に一種の樂しみを與へ、且つ勇氣と自信力を増さしめ、其仕事に就て希望を深くする利益がある、患者が其好む處の仕事の爲めに、自己の病苦に對する注意力を薄くする、是等の規

則正しき身體的運動が、永い間施行されて居る中には、其れが習慣性となり病氣が治癒して健康となりし後に於ても、此仕事を維持することによつて病症の再發を防ぎ得る好結果がある、任事中繪畫著作の如きは、其の仕事に従事する中にも、自己の腦中に希望と自信とが現はれて、自然興味が湧き出づるものである、全快の後に於ても、自ら經驗し得たる仕事によつて疾病を未發に防ぎ得らるゝばかりでなく、將來自己の生活に向つて其基礎を之れによつて固める事が出来る、又此療法の適用に就ては、各人により亦其疾病の如何によつて其仕事の種類、持続時間等を定める必要がある、到底一口には云ふことは出来ないが、一般の上から云ふと、腦神經衰弱の徴候のある時は、室外の園藝、釣魚等の筋肉的動作が良い、特に心氣性の腦衰弱の場合に最も有効である、

神經衰弱によ
い稼働

又男女によりても仕事を異にする必要が勿論ある、婦女なれば、裁縫、炊事、掃除、手工、編物、刺繡、造花などはよい、男子なれば、花木の移植、盆栽、庭園の掃除等は最もよい、唯それによつて精神を勞し、運動の過度又は不足を來す虞ある

人により療法
を代ふる必要

ものは之を避くべきである、其他特殊の設備ある所にては、田園耕作、動物飼育、牧畜、狩獵、自轉車、試乗、馬等も亦適當な方法である、斯く其方法は多くあるも、該方法が、患者の全精神をこれに集注し、之がため病的精神は患者の意識に上り來らぬ様に防ぎ、健全なる思想を養い、健康なる意志を強める效あるを可とする、されば其療法は患者個性の人格、教育の程度、職業の種類、嗜好の差、及び健康状態の良否によりて、各人各様でなければならぬ、千遍一律誰にも同様の方法を以て満足せしむべきものではない、患者の好む仕事は何なりともこれを許してよいが、只其禁忌とすべきは、徒に腦を刺戟し競争心を助長し、危険を伴ひ、心を安んずる事能はざるが如き方法は、之を堅く避くべきである、又同一の仕事にても、一般に室内の仕事よりも、室外の仕事を可とする、庭内の仕事よりは、構外の仕事、就中廣潤なる土地に於て、新鮮なる空氣と、十分なる光線ある所にてする方法を探るべきである、而し後者は患者が既に健康者に近く、只恢復期にあるものに於て初めて行はるべきものである、此療法は寧ろ健康法、攝生法とも見るべき法である、故に他の精神療

稼働禁忌の場
合

法に併せて行はしむるとよい。
精神修養の爲め、萬人が常に拳々服膺すべき明治天皇陛下の御製を謹んで
左に申上ませう

さしのぼる朝日のことく爽かに

持たまほしきは心なりけり

目に見えぬ神の心にかよふこそ

ひとのこゝろの誠なりけり

鬼神も泣かするものは世の中の

ひとのこゝろの誠なりけり

くろがねの射し人もあるものを

貫きとほせやまとだましひ

己が身をかへりみずして人の爲め

つくすや人の務めなるらん

服膺すべき御製

神経病の原因

輕症と重病とを異にする療法

第二十三卷 環境轉換療法

第一章 環境轉換療法とは何ぞや

環境とは病人の周囲の人及び物にして病原となりしものを云ふ、神経系統患者の原因の多くは、其境遇が精神及び身體を過勞したるに因ることが多い例へば文明に伴ふ社會の生活状態の複雑が原因であるときは、其有害の刺戟を少くし、又は全く無くすると、其の病氣は癒る、病氣の原因となつた刺戟を蒙つた社會生活、又は家庭生活と隔離したる所に患者を移し、環境を全く轉換すると、病氣は早く癒る、之を環境轉換療法と申します。

第二章 環境轉換療法を行ふ

環境轉換療法を行ふには、病の輕重と性質とによつて、其療法を異にしなればならぬ、成るべく高燥な土地、閑靜な家屋を選びて移り、極意の者の外

轉地療法

他人を避けて深呼吸をなしたり神を禮拜さするとよい、或は風光明媚な山間或は海濱又は温泉場に行きて、病の原因となりし悪しき刺激を避けると大により、轉地療法は攝生上治療上利益あることは勿論であるが、殊に轉地すると患者が寸時も忘却する事が出来なかつた胸中の煩悶をして四圍の新しき物珍らしき物の爲に心機一轉して忘れる、又珍らしき土地にて珍らしき甘い食物を食すると、快感を起し勇氣が附いて病氣は癒る、恰も重い荷物を負つて長い坂を辿つてゐる者が、目的地に達して重荷を下したときと同様な感じがして、重病も消えて仕舞ふ、斯様な方法を取るには、患者の周囲の有害的關係、即ち病の原因となつた場所や總ての事柄と遠ざかる場所を選む必要がある、然ると患者の神経系に十分なる安静が得られ、肉體の疲労は快復せられ、病氣は自然に根治する、若し其の場合に患者が非常に貧血して、營養が衰へて居るときは、肥饒療法と云ふて、適當の滋養物を與へ、身體を強壯にし、肥滿するところの療法を合せて施すと最もよい、此肥饒療法は、如何なる療法を行ふ際にも併せて行ふと全快が早い。

肥饒療法

第二十四卷 慰藉歡樂療法

第一章 慰藉歡樂療法とは何ぞや

慰藉の必要なる所以

慰藉歡樂療法は、病人に嗜な甘い物を食はせ、面白い物を見せ、愉快な物を聽かせ、適宜に運動をさせ、病人の心を慰め、樂ましめ、生理の働きを盛んにし、病人であるとの觀念を忘れさせ、病人であるとの考の起さざる様にし、健康にする方法である。

人々は食物が必要であるが如く、又慰樂が必要である、病人でない健康者でさへ、日常相當の慰樂が伴はぬと元氣がなくなる、元氣がないと何事をしても、多くは不快にして失敗に終る、之れ慰樂の必要なる所以である、況んや病人に於てをや、如何なる療法を行ひ居りても、此療法は兼行ふがよい。

第二章 慰藉歡樂療法を行ふ法

慰藉歡樂療法に種々ある、先づ散步、小説、活動寫真、寄席、芝居、食物等がある、其他大弓、謠曲、蓄音機、園藝、遊山、水泳、遊獵、習字、繪畫、文學等がある、其効果は肉體的運動によりて得る好影響と共に、精神的慰樂によりて得る好結果である、常に病人に對しては看護人亦は家族の者は、非常に同情し至誠を以て看護し慰藉し生命を賭しても病人を健康にせねば止まぬと覺悟し屹度癒る最早大層快くなつた、全く快くなつた、との治療獎勵の言葉を熱誠を以て、繰り返し繰り返して云ふとよい、然ると其言語は孤軍が俄に百萬の援軍を得た如き強い力となりて、其言語の如く早く癒るものである、藥物療法を行ひて全快した患者中單に藥物の力にのみよりて全治したとのみ思ひ居るが、其實は藥物の力で無くして慰樂によりて全快した患者が多い、故に慰樂は健康を保持し、病氣を治する方法で害のない良法であるから、如何なる病人にも行へる病人には行ふがよい、又如何なる療法即ち催眠術療法、神靈療法、其他如何なる療法を行ふ際にも此療法を兼行ふとよい。

讀者は第一卷より本卷に至る二十四大療法を熟讀し來りて如何の感起

さるゝや、精神療法の名稱は種々あり、其方法は雜多にして各其療法に特有の長所あるも、其大原則は唯一なるに、其學理的説明を異にして居ると、其應用法に精粗の差あるのみであることを覺知せられしこと、信じます、歸する處精神療法の原則であり、骨子であるのは催眠術療法である、其他の療法は各特有の長所はあるも、原則は催眠術療法の一部に過ぎぬ事を少し申しませう。

催眠術療法に二種あり、曰く狹義と廣義と是れなり、狹義の催眠術療法は本書第一卷に述べしもの即ち其れである、廣義の催眠術療法は本書に述べし二十四大療法は悉く含有して居る、本書に述べた催眠術療法以外の二十三種の療法は何れも皆催眠術療法の一部分を行ふて居るものである、故に完全の催眠術療法は本書講述の二十四大療法を悉く完全に行ひ盡さなければならぬ、此事は本書の初めに述べた所の催眠術の定義によりて明かである、其定義に「催眠術療法は病人の暗示感受性を高めて、治療の暗示を感應せしむるものである」又「催眠術療法は患者の顯在精神を無想にして病氣

は癒るとの観念を起させ、其観念の通りにする法である。此定義によれば、本書講述の二十四大療法は悉く催眠術療法である。原理上より見ても、方法上より見ても悉く催眠術療法である。尙解し易からしめん爲に、以下二十

深い催眠状態
とすると否との差

三種の療法を順に批評して見ませう。
暗示術療法は暗示を感應せしめて病氣を癒す法であるから最もよく催眠術の定義に當嵌まりて居る、即ち廣義の催眠術療法である。只狹義の催眠術療法と異なる點は、病人を必ず相當の催眠状態にすることが前提條件となつて居ると否との差である。相當の催眠状態とせし上に、暗示するのがよいか又は極く浅い催眠状態にあり又は全く催眠せざる者に單に暗示のみするのがよいか申までもなく催眠状態となり居るものに與ふる暗示が初めて偉大の效を奏することは事實上明かである。又暗示術療法にても效のあるときは患者が浅い催眠状態になりて居りし故である。
催眠せしむるは顯在精神を無想にすることである。少しも無想となり居れば暗示が感應するのである。少しも無想にならなければ少しも感應せな

異名同質の療法

催眠術療法の
變形

い、即ち無効に終るのである。催眠と云ふも前後不覺に眠つた様の状態は深い状態、自分で平常の状態と少しも變らぬ様な心持でも、暗示が感應し、多少でも效があるのは浅い乍らも催眠してゐるからである。
プラナ療法は其原理の説明は少し異なる處あるも、プラナは精神力である。と解すれば、暗示術療法と異名同質である。
静坐呼吸療法は、自己の心身を健康とし精神を統一する修養法である。催眠したと云ふのは精神が統一した状態を云ふのである。自己催眠療法も又之と同一の目的で行ふもので、前者より一層煎じ詰めし者で、無論催眠術療法の一種である。

遠隔催眠療法は、純然たる催眠術療法であること申迄もない。
精神分析合成療法は、深い催眠状態に患者を導くことを得れば容易に行はる。患者をして催眠中種々の事を喋りて覺醒後に其事を少しも知らぬ様に、深く催眠せしむることは患者の性質によりて實際不能の場合が多い。依て患者が覺醒時に在るときに質問し、應答せしめ、其應答によりて病原を探知

する法を考へて行ひ、以て治療する之、又催眠術療法の變形であること明かである。

應用する原理は同一であるが、名稱を異にする。

舉證說得療法の如きも、單に患者が覺醒時に在るときに舉證し說得するよりも、催眠時にある患者に舉證し說得したならば、必ずや其効果は前者に増して著しきや勿論である。又催眠が深く進み居れば、水を麥酒に飲ませ、犬を人に見せる作用を以て居るから、病氣位は何でもなく癒る所以である。然し患者を深い催眠に導くことは患者の性質によつて六ヶ敷い故に不完全ながら覺醒時にあるものに、舉證し說得して病を癒す所の法である。併し此療法にても大効果の舉る場合は患者が多少催眠状態になり居りし故である。故に廣義の催眠術療法と云ふことを得るのである。

心靈術療法は哲學と宗教とをのみ應用して行ふ催眠術療法である。然るに普通の催眠術療法は、哲學宗教の外に、心理學、生理學を應用して成るのである。只其應用する學理の範圍が異なるのみである。

心理學のみを應用して行ふ催眠術療法を心理療法と云ふ、氣合術療法、リズム療法は暗示術療法の變形である。

人身マグネット療法は精神作用を惹起する力をマグネットによると解釋したる說にして、行ふことは純然たる催眠術療法である。

信仰療法は癒るとの觀念を神力によりて強むる法で、宗教を應用したる催眠術療法である。

患者を一見しのみて催眠

クリスチヤンサイエンス療法も又信仰療法と同じである。

大靈道靈子術療法は、催眠術療法の形式を行ひ、深い催眠状態にならざる者に治療の暗示をする法である。

哲理療法は催眠術療法中の哲學のみを應用して行ふ法である。只患者に對して催眠法の形式を行ふも患者が深い催眠状態にならないのに、治療の暗示をするのが哲理療法である。催眠法の形式としては術者が單に患者を見、説明をする、之れ即ち催眠法を行ふたことになる。講述者は單に患者を一、眼見る、其れ丈で催眠せしむる場合が多い。

靈智學、隱秘療法、人身自由術療法、之れ皆催眠術療法の變形であることは、

以上の説明によりて明かして、尙くどくどしく云はずとも、讀者の首肯せらるる所であると思ふ。

稼働無想療法、環境轉換療法、慰藉歡樂療法の三療法も、又妄想を拂ひ即ち顯在精神を無想にして癒るとの觀念を自ら不知不識に強め、潜在精神に強く感應させ、觀念の通りに健全とする法である。故に非常に廣い意味の催眠術療法である。以上の説明によりて、精神療法の悉くは廣義の催眠術療法であることは明かである。然るに催眠術の口元たる卑近な療法を行ふて、假令多少の特色があつても、これは催眠術以上の療法であるとか、又は甚だしきになると此療法は催眠術療法の如き下らぬ療法と異なりて高尚有益なる療法である、と世人を欺き社會を惑はす様のことありてはならぬ。

精神療法家を以て任ずる學者は心を常に清くし、人の爲め世の爲めに盡さんと、赤誠を缺いてはならぬ。假令世人が精神療法を誤解し攻撃する人があつても、自己は決して誤魔化師の説を主張してはならぬ。主張が赤誠であり、眞理であれば、若し現世に己が説を認めて呉れる人がなくとも、後世必ず

誤解は意に介するに足らぬ

利欲を後にして行動はよ

己が説を認めて呉れる人があつても、俯仰天地に恥ざる行動を執り置かば、必ず何日か花咲くときがある。誤魔化師の説で一人の信用を得れば、それだけ自分の罪は大となり、二人の信用を得れば尙其罪は倍となる。終に何日か其人は社會より葬らるゝときがある。故に催眠術療法の一部分にしか當らぬ、卑近の療法を行ひ、之は催眠術療法とは全く根柢を異にせる善良の療法である。と主張し、世を欺き人を欺きて、假令僅少なりと金員を貪り取らんか、其罪は大である。慎むべきは是である。戒むべきは是である。併しながら、全く利慾を去りて病人を救ひたきまゝに、世人の嗜好に投ずる療法の名を用ひて、世人を安心させ、信用を得て其の患者の爲めに盡すことは、良い事である。此意味に於て新しき療法名を附して行ふことは、敢て害がない。殊に催眠術以外の二十三種の療法にも、各其特色がある。其特色たる長所を採つて以て行ふことは、講述者の本旨である。爰迄述べ來て考ふれば、催眠術療法の偉大なること、催眠術の範圍廣くして應用の大なること、實に驚く可きである。其れも其筈です。催眠術は各國の大學校にて教科目として居る。其他の二十三種

催眠術の效果

- の療法は一も何れの大學校の教科目にもなつて居らぬのみか、其多くは學者の願ざるもの、みである、只山師が之を主張し居るに過ぎざるものもある、眞に催眠術は精神療法之王である、果して然らば催眠術は如何なる効果あるか、人の行ひの總ては皆其人の精神の働きである、其精神の働きを左右する力を催眠術は持つて居る、實に催眠術の效果は宏大である、左に其中の一、二を列挙して示しませう。
- 一、藥物を以て癒すことの出來ぬ病氣を癒し得る事。
 - 二、教育宗教は勿論、如何なる感化、戒も更に效なき不良の子弟をして、完全のひとと矯正し得る事。
 - 三、他人の病氣又は惡癬を癒し得るのみならず、自分の惡癬又は病氣を癒し得る事。
 - 四、人に話せぬ精神上の苦惱を消失せしめ、歡天喜地の人となし得る事。
 - 五、即座に人間又は動物を人事不省の状態となし、思ふが儘に奇妙不思議の現象を起し得る事。

催眠術の深遠

- 六、宗教上に於ける靈魂問題を解決し、且つ心理學上哲學上の疑問解決の力となる事。
 - 七、忠君愛國孝行友愛の人とならしめ、無病長壽、元氣旺盛、職業に忠實なる人とならしむる事。
- 以上の外、其效用の偉大なること、筆紙に盡し難い、眞に如何に偉大の效果あるかは、讀者之を研究せられなば研究の進むに従つて、其效の宏大無邊なるに喫驚せらるゝであらう、依て催眠術は研究すればする程面白くなると共に、又其奥儀の深遠なるにも驚かすであらう、講述者は催眠術に關しては「高等催眠學」催眠術寶典各一千頁以上の大冊を著してある、其二大著書中に催眠術に關する講述者の學說實驗は未だ百分の一も述べてない、之に依つて見ても、如何に催眠術は深遠なるものであるかを窺ひ知るべきである、斯く深遠なる催眠術を本書にては僅か述べしに過ぎない、さりながら、本書に記載しある通りに實行して見ると、確に人を催眠せしめ、病氣を癒し、覺醒せしむることを得ることは、確く保證する處である、併し私が新聞雜誌記者、

其他諸名士の面前にて行ひし不思議なる催眠術の大實驗、即ち反抗者を拍手一つで深く催眠せしむる事、術者被術者遠く離れ居りて、口笛二つで深い催眠に導く事、人格變換、千里眼を行ふ事、重病人を即座に健康體とする如き、奇妙の現象を研究し實驗せんとする人は、前記の二大催眠術書に基き深く研究しますれば、其域に達することが出来、又精神療法を深く研究し眞に偉大の效を擧げんと欲する人は、精神療法の根源である所の催眠術を深く研究せられんことを切望して止まざる所であります。

第二章 精神療法成功の秘訣

本書の講述を終るに當り、精神療法を行ひ、屹度成功する秘訣を述べませう。

一、精神療法を行ひ、偉大の効果を擧げんとするには、本書に述べたる療法は悉く熟讀し、彼此折衷して患者の病源と性質とにより適宜の法を行ふを要します。殊に施術法に就ては二十四種悉くの療法につき非常の熟練を積み、機に臨み變に應じて千變萬化の法を施し得る修養を積み置くを要し

實力の函養

國家的精神

犠牲の精神

人格の修養

神の心は萬
金に勝る

ます。

二、精神療法を行ふ人は、國家的精神を以て世の爲め、人の爲めに盡すのであるとの赤誠を以て、努力を惜しまず施さなければ效が擧がらない。

三、施術料を欲しき爲めと、患者の感謝を得たき爲めに施術すると失敗に終る、犠牲獻身の精神で、世の爲にするのである。國の爲めにするのである、と覺悟して行はなければ成功しない。

四、術者は常に人格の修養を怠りてはならぬ。精神を圓滿に、爽快に、快活に、愉快に持ち、其感化を患者に及ぼして、初めて效が擧がるのである。

以上四個の條件を完全に具備すると、初めて其術者の施術は奇蹟的大效を擧げ得るのである。

男爵森村市左衛門翁曰く、人間は心の中に神を宿さなくてはならぬ。正直の頭にのみ神は宿るものである。邪念慾張魂性曲りがあると、頭の中に神様が宿らぬ。修養して心を清くし、神様が心の中に宿つたときの嬉しさは、億萬の富、第一の位、何んな物にも例へることが出来ぬ。横濱商業會議所會頭大谷嘉

三魂より成る大和魂

兵衛氏曰く、金も爵位も欲しくない、働くのは金を得度い地位を得度い爲てはない、唯精神を磨くのである、金や地位は何かて無くなることがある、無くなれば最早何にもない、磨いた精神は何物に逢ふても無くなること、無く頭山満翁曰く、元氣がなけりや駄目だ、金に目を呉れたり、女に深入をする様では逆も見込はない、何事にも正義人道を根據に置かなかつた日にや、最後の勝利を得る事は出来ない、侯爵大隈重信氏曰く、何業をするにも國家的精神が根本になつて行はなくてはいかぬ、日本人は三魂を持つて居る、即ち奇魂荒魂幸魂で、是が三種の神器となつて、劍鏡爾となつた、支那の智仁勇之である、之が集合したるものが大和魂である、國家の爲めに必要であれば、吾は生命も財産も捧げなければならぬ、と此三大家の説を精神療法家も、常に之を服膺して實行したならば、必ずや其人は成功し、後世に名を残すことが出来ませう。

精神療法講義終

大正七年十二月二十日印刷
大正七年十二月三十日發行



著作兼
發行人

東京市芝區琴平町三番地

古屋景晴

印刷人

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

中野鏝太郎

印刷所

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

東洋印刷株式會社

東京市芝區琴平町三番地

發行所
精神研究會

電話新橋一八七五番
振替口座東京三三五一番

精神療法研究家必讀珍書

古屋鐵石先生著 上製 八拾錢 並製 五拾錢 送料八錢

大珍書

秘密獨習
成功確實

女催眠術

口繪 女催眠術家が不思議の實驗をなし居る處の寫眞版數個挿入

此催眠法は精神療法研究の根柢にして、術者を神道に云ふ神人合一、佛教に云ふ眞如法性、基督教に云ふ見神の狀態となすにあり。

著者多年研究の結果、最近の發見になれる進歩せる催眠術を婦女子と雖も秘密に自宅にて獨習し、催眠療法を行ひ得る根柢を簡易に秘訣を講述せり、殊に精神的慰藉と人格の修養とに力を濺ぎ婦女子に關する面白き問題を解説しあり、讀んで面白き事不思議なる事小説以上なり。

(精神療法之根柢)

此書は各種精神療法之根柢を解り

非醫者が精神療法所を開業する手續

醫士は藥物療法所なり、精神療法所なり、隨意に開業することを得るも、非醫者は藥物療法所を開く事は絶対に不可能である、併し非醫者にも精神療法を修得し、實地に病人を癒し得る實力を涵養し、具備せる人は精神療法所と云ふ看板を掲げ、施術料を徴收して之を行ふことを得、目下の處精神療法所開業の手續に就ては何等の規則なし、故に之を研究し確に治療し得る實力を備へし人は、隨意に開業することを得(尤も獨り青森縣に於ては、縣令を以て取締り規則を設けた、故に青森縣にては其規則に基き、縣廳より許可を得なければならぬ)確に治療し得る實力あるや否やを明白に立證するには、信用ある精神療法教授所の卒業證書を示すは、最も良法である確に精神療法を行ひ得る實力ある者は開業は隨意であるも、管轄警察署に其旨を話し承認を受け置くと最も安全である、然れ共警察署にては届書又は願書を受理すべき規定がないから届書又は願書を差出すと却て悪い、而して警察署長の意見によつて、多少の差異がある、或警察署にては大に之を賞讃し、又或警察署にては疑ひの目を以て見る處がある、依之開業せんとする者は、萬事を正々堂々として、人格を高め品位を高潔にし、行爲に疑を挾まるゝ様のことなきを要す、精神療法を慈善的に無料にて爲す事は最も差支ない、又謝金は思召にてなすは又可である、此二個の場合に如何なる警察管内にも何等の苦情はない、併し相當に施術料を取つて、之を營業とせんとする者は、相當の實力と品位とを具備せざればならぬ、然らざれば開業するも實效を擧げ得ずして失敗に終るや明である、彼の鍼灸を見よ、按摩を見よ、元は何等の取締規則なかりしが、故に其れを覺えたる者は、誰でも自由に開業をすることを得たが、其取締規則出で、後の今日は、鍼灸按摩と雖も、六ヶ敷試験を受けて及第し、免狀を得ざれば開業することが出来ぬ、之と同じく、精神療法も目下の處は之を研究し覺え居るものは、誰でも直に開業を爲し得るも、早晚出でんと風説高き、精神療法取締規則出で、の後に、開業せんとするには、六ヶ敷い醫士の如き試験を受け、及第せざればならざる事となるかと思ふ、故に早く精神療法を研究し、開業し置けば、其の後に取締規則出づるも既得權によつて無試験にて開業免狀は下附さるゝ事となるかと思はる、依之精神療法所の開業は、目下の急務にして早く開業し置かば之が後日美花を開く幸福の種子となりませう。

精神療法
「無料治療券」

一、施術受付時間午前九時、但月曜日と大祭日は休日の事
 一、精神療法中氣合術療法に限り、本券壹枚、壹人壹回限り、無料施術す、受術者の住所職業氏名を裏面に記し、本會へ出頭本券を受付所に差出す事
 一、會員以外の人、本券にて受術するとき、本會の住所氏名を併記する事

精神療法
「無料參觀券」

一、參觀申込受付時間午前九時、月曜日大祭日は休日の事
 一、本券壹枚壹人壹回限り、本會の施術室に入場參觀することを得、使用者は住所職業氏名を裏面に記して、右受付時間を受付所へ差出す事
 一、本券は會員以外の人に流用せざる事

精神療法
「終生質問券」

一、質問の事項を簡明に記し本券に返信用郵券を添へて申込む事
 一、然れば本會にては回答書と共に本券をば添へて返戻する事
 一、質問の事項以外の事を併記したるものは、無効とし回答せざる事
 一、本券の裏面に會員の住所氏名を記入し置かる、事

精神療法
「通學生大募集」

- 一、通學部に入會すると書籍の上には現はす事の出來ぬ療法上の奥義を教授する
- 一、通學部卒業者は精神療法家として通信部の遠く及ばぬ實力と信用と資格とを得る
- 一、通學部卒業生は本會の支部長又は分會長となる資格あり、又希望によりては本會の職員に採用する
- 一、通信部卒業生通學部に入會するときには、教授料を一割引として優待する

精神研究會卒業試験規定

第一條 通信會員及び通學會員本會所定の學術を履修し、精神療法を行ひ得る者は受驗することを得。但し、國民道徳會々費滞納者は受驗することを得ず。

第二條 通信會員卒業試験を受けんと欲せば、何時にても左記の問題につき答案を認め提出すべし。何時にても左記の問題につき答案を認め提出すべし。

一 受驗者が精神療法を行ひて惡癖又は疾病を治したる實例、及其學理上の説明、但實験には立會人を附し、立會人及被術者の住所、職業、姓名、年齢及實験の場所年月日を明記すべし。

第三條 通學會員卒業試験を受けんと欲せば、修學を終りたる時、直に卒業論文、(問題は隨意)を認め提出すべし。

第四條 答案は十二行野紙を用ひ、書體は楷書に認め受驗者の住所、職業、勳位、姓名を明記すべし。

第五條 答案は本會内試験掛に宛て、受驗料(通信會員は金貳圓、通學會員は金五圓)を添へ差出すべし。

第六條 通信會員又は通學會員試験に及第したるときは各其卒業證書を授與す。

第七條 通信部又は通學部卒業生更に專攻科(通信と通學とあり)に入會し、修業の上(論文の性質によりて)本會所定の心學士、哲學士、靈學士、心理學士、精神學士の中何れかの稱號を授與す。

第八條 專攻科入會規定は、入會の資格ある卒業生に限り郵券三錢封入申込次第送す。

第九條 卒業者と雖も、除名し、稱號を與へられし者は、行爲ありしときは除名し、稱號を與へられし者は、之を褫奪す。

第十條 一名にして數種の學位を請求せんが爲に、論文を數種提出することを得。但し論文一通毎に所定の受驗料を要す。

精神研究會公衆施術證

本會卒業者中公衆に施術する實力あることの證明書を得んとする人は、病人を五名以上全治せしめし報告書に、手数料金貳圓を添へ申込まれるれば人格と實力を認めし會員に限り之を授與す。

精神研究會分會設置廣告

精神研究會卒業精神學士にして、精神療法及其教授をなし、人を救ひ世を益せんが爲に、精神研究會分會設置希望者は、履曆書に所有せる財産額を記入し、適宜の申込書に認可料金拾圓を添へ御申込相成度候、然れば證衡の上認可致すべく候、認可相成候上は其名稱を左の如くする事

精神研究會○○分會

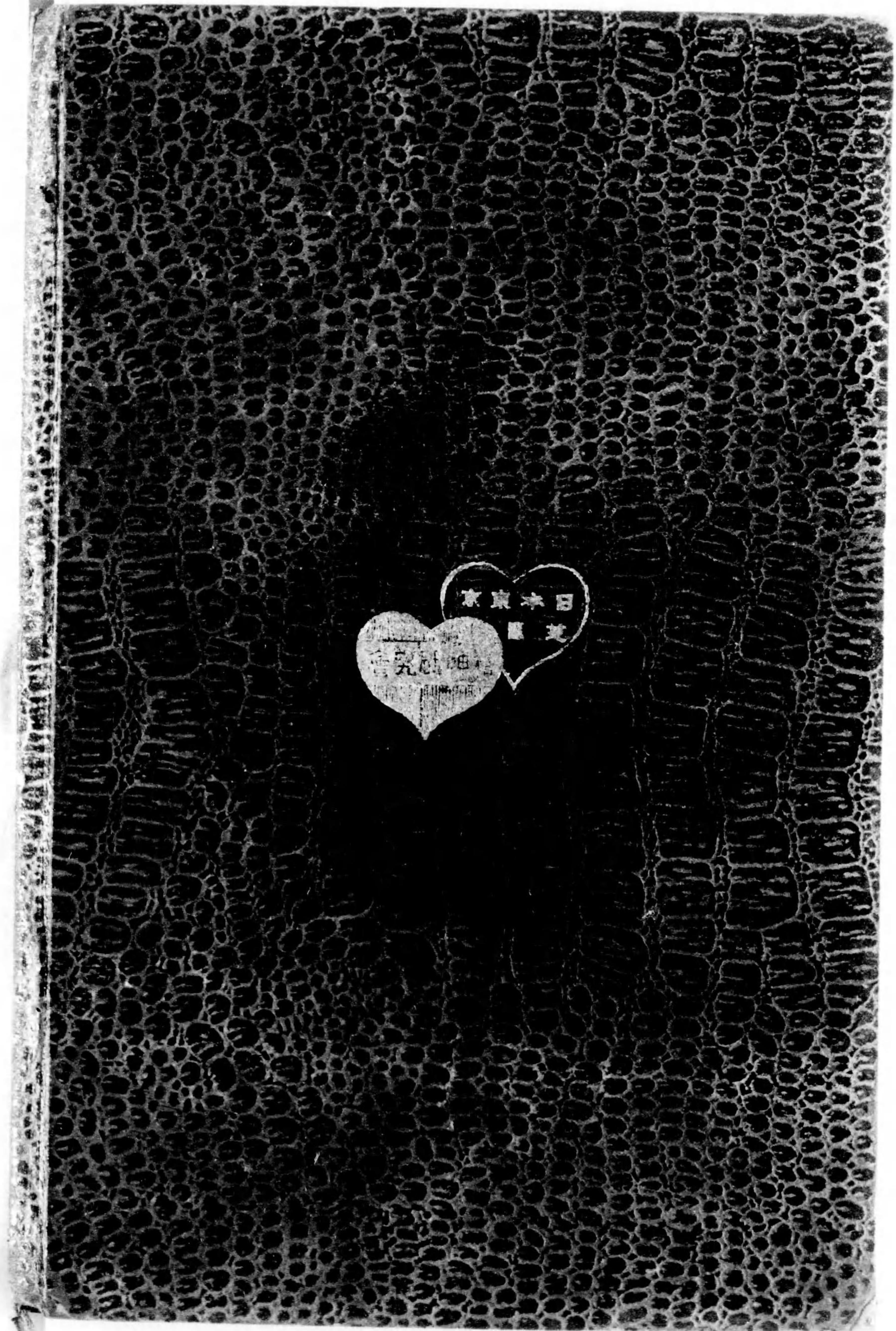
○○の所へ其地名を入る事、分會長は申込者たる精神學士に限る事、分會の權利義務は分會長全責任を負ふ事、分會長若し精神療法家としての體面を損する行為ありと認めしときは、本會の一方行爲にて分會の認可を取消す可く候、本會にては分會へ参考用書籍雜誌を無料にて交付す。

280
229

11
11

11
11

11
11



東京本屋
星野
全巻
全巻

終

